

アメリカ留学を経て

情報文化学部 2年 涌井 秀永

私が留学を希望した理由と、この新潟国際情報大学に入学した理由はつながっています。せっかく大学に行き学ぶのなら、日本と違う文化に直接触れ、自分自身の視野を広げたいと思っていました。そこで留学制度が整っているこの大学に入り、自分自身の留学をしたいという希望を叶えました。留学をするにあたりまず、留学中の目標をたてました。その目標とは、**hearing** 能力とコミュニケーション能力を上げることです。高校時代のテストやそのほかのテストでも **listening** や **hearing** の箇所点数を落とす傾向があったのでそれを第一の目標に置いていました。しかし、目標を立てたにもかかわらず留学前に **hearing** の勉強や練習をしたかと言われるとそうではありません。留学前は主に単語の勉強や、アメリカでよく使われる文法、会話表現の勉強をしていました。留学前の準備は常に時間がない状況の中で進められて行きました。私は自分自身のクレジットカードを持っておらず、クレジットカードの作成と並行して、東京にあるアメリカ大使館に送る資料の作成、費用の支払いをしていました。費用の支払いに関してはクレジットカードが必要となっており、準備の段階はとても忙しいものでした。その部分を前もって知り、余裕を持っていればより留学前の勉強や下調べに時間を割くことができたのかなと感じています。

準備の段階でいろいろな困難がありましたが、無事出発当日を迎えることができました。正直当日になっても今から私たちがアメリカで4ヶ月という期間、生活をするという実感が湧きませんでした。実感が湧いたのは空港の出国ゲートを通り、飛行機に乗ってからで、CAが英語を喋っていて国内線とは違う空気感を感じました。アメリカは日本から遠いということもあり、飛行機とバスの移動がとても長く、アメリカの雰囲気を感ずる余裕もなくひたすら疲れを感じていました。これから4ヶ月生活をする **Franken Hall** に着いたとき、何人かのアメリカの生徒が出迎えてくれており、みんな優しくそうな雰囲気を持っていたので不安を感じることはそこまでありませんでした。しかし、ネイティブの人々の話す英語はとても早く、聞き取ることは困難でした。

ガイダンスが始まり、大学の設備や建物の説明、クラス分けテストやお世話になる先生方との顔合わせなど様々なことを行いました。先生方との対談では、先生方がゆっくり話してくださったにもかかわらず、聞き取ることが困難な上に自分の考えていることをうまく話すことができず、非常にもどかしい気持ちになりました。そこで最初にもっと日本で勉強をしておけばこんな気持ちにならずに済んだのかもしれないと後悔しました。しかし先生方は私の拙い英語と文法を一生懸命理解してくれ、気持ちを汲み取ってくれたので、自分は留学生で英語を学びにきているのだから間違えることは仕方のないことと気持ちを割り切ることにしました。授業は **TOEIC**、**Reading・Writing**、**Speaking・Listening**、**Culture**、**Grammar** という授業構成でした。クラス分けテストの結果でAクラスに行くことになった私は初めての授業で周りが外国人の方ばかりで、彼らは英語を話すことができるので、不安ばかりが募っていました。案の定その不安は的中し、**Speaking** の授業で二人ひと組に

なった時にパートナーに迷惑をかけてしまいました。しかし、自分自身が英語をうまく話せないことや **Hearing** が苦手なことを伝えると、そのことを理解してくれ簡単な英単語で話してくれました。そこで私はちゃんと自分自身のことを伝える大切さや、お互いのことを異文化や人間関係としての違いを理解することを学びました。日本では、外国人の方々と接触する機会は少なく、周りが日本人ばかりなので共通の文化を共有しているので文化間の違いによるすれ違いのようなものは起きにくいですが、アメリカでは多数の国の人々や人種がいるのでお互いの文化を尊重することがとても大切だと痛感しました。私のクラスには中国人や韓国人というアジア圏の人もいました。実際、アメリカに行き中国人や韓国人の方と関わる前はそれらの国に対していい印象を持っていませんでした。しかし、いざ話してみるととても親切で面白く、授業中に何度も助けられたり、笑わせてくれたりしました。

授業が始まり授業形態に慣れるまでは、寮に帰ってきえから夜遅くまで勉強する日々が続きました。教科書が英語しか書かれていないので宿題をやるのにもまずは問題文を理解することからやらなければいけないので、宿題に嘆く日々が続いていました。毎週、私のクラスでは新聞の記事をひとつ読んで要約と感想を書く宿題が出ておりそれがとても大変でした。要約に関しては、同じ単語を使ってはいけなく、同じ意味を持った単語を使ううまくその記事の重要な部分や伝えたい箇所をピックアップしまとめなければ先生から高得点を得ることができませんでした。しかし、この宿題のおかげで単語力の向上や記事や分の重要な箇所をうまく抜き出すという力をつけることができました。最初の頃はうまくできず、先生方に聞くとわかりやすく教えてくれたのでひとりで深く悩むということはありませんでした。



も知らなかったもので、たくさんの質問をしてくれました。文法の間違いなども教えました。トピックの内容は、政治や選

授業以外にも、週に 2 回、留学先の大学のアメリカ人との生徒の **conversation** の時間が設けられていました。私の **conversation partner** は **Tyrell** という人でとても親切で、毎回話すトピックを考えてきてくれていたので、毎回の **conversation** の時間がとても充実していました。会話が始まる前には週末のことをお互いに話したり、その日のことについて話していたりしたので、和やかな雰囲気ですトピックに移ることができました。たまにトピックの内容と質問が難しい時には、簡単な単語と例を出してくれていたもので、特に困ることはありませんでした。

最初の **conversation** の時間には大学のことを何

幅広くとてもバラエティに富んでいるもので、毎回の **conversation** の時間がとても楽しみでした。

留学先の大学は毎日イベントがあったので、授業後は各々が行きたいイベントに行くような形をとっていました。私の思い出に残っているイベントはアメリカンフットボールとお化け屋敷と **Thanks giving day** です。留学先の大学はベアキャットというマスコットや名前でも知られていてアメフトのチームはとても強くて有名でした。留学に行くまでアメフトというものを見たことがなく、アメリカのスタジアムで初めて見たときはとても迫力があり熱気がすごく、日本では味わえないような独特な雰囲気が漂っていました。試合が始まると観客が総立ちになって応援していたので自分も混じって応援してとても楽しかった記憶があります。ベアキャットが得点を決めるとスタジアム全体が沸く程の歓声が起こるのでその空気感はとても癖になるものでした。最初に見たアメフトの試合は夏にやっていたので汗ばむほど外が暑かったけれど、私が最後に見たアメフトの試合はとても寒くて毛布を巻いて見ていました。10月の後半のハロウィンが近づいてくると、使われていない寮でお化け屋敷のイベントが開かれました。アメリカのお化け屋敷はやはり日本と違い西洋やアメリカのお化けがメインでした。お化け役の人たちはアメリカ人の生徒だったので身長がとても高くとても迫力があって声を出して叫びました。**Thanks giving day** では大学の教授の家に招待されて行きました。夜ご飯の時にはご飯を食べ終わった後に、アメリカで生活してきた中で大変だったことや、日本とアメリカの文化の違いで苦労したところなどを話しました。教授なだけあって、とても簡単な単語を選んで話してくれたり、ゆっくり話してくれたりしました。**Thanks giving day** 当日には違う街にいる教授の友達の家に行ってディナーをご馳走になりました。初めて **turkey** を食べ、アメリカ人とご飯を食べながらいろいろ会話をすることでアメリカの祝日にちゃんと触れることができたことと実感しました。日本車の人気はとてもすごく、ご飯を食べながら会話をしてくれたアメリカ人の家族はみんな日本車に乗っていると話していました。



留学先のミズーリ州では寒くなるのがとても早く、夏服を着る期間はそれほど長くなく、秋服や冬服に移行するのが早かった記憶があります。11月の中旬の寒い時には体感気温が -15°C 以下まで冷え込む日があり体調管理がとても大変でした。寮内では寒くなっても

部屋のヒーターが使えない期間があったので体の調子が優れない時もたまにありました。私たちは **Franken hall** の4階で生活していて、4階にはネパール人がたくさんいました。寮内でもやはり文化の違いがあり、たまに衝突したこともありました。しかし、ネパール人の人たちは日本のことをとても好いてくれるようで日本語を覚えて会話に混ぜて会話をしていました。

今、留学生生活を振り返ってみるととても充実していた日々を過ごしていたと思います。アメリカにいるときには宿題の多さと自分の思っていることを表現することのできない悔しさで不満がいっぱいありましたが、一つ一つの困難を乗り越え、やるべきことをやって楽しむときはしっかり楽しんで生活をしたことを振り返ると留学をしたことは自分自身の中でとても貴重な経験だと思えます。自分が目標としていた **hearing** 能力の向上という目標も留学当初と比べると向上したと思えます。留学で得た経験と知識、自分が直接体感したアメリカの文化というものは留学をしないと得ることのできない貴重なものだと思います。この留学で得ることのできた経験というものを今だけのものにしないようにこれからも勉強を続け、勉強以外で得ることのできたものは社会に責任を持つ一人の人間として、これからの生活や将来に役に立てることができるようになりたいと思います。

